

安曇野市つながりひろがる協働推進委員会 会議概要

| | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 会議名 | 令和6年度 第2回安曇野市つながりひろがる協働推進委員会 |
| 2 | 日時 | 令和6年12月13日(金) 午前9時30分から午前11時40分 |
| 3 | 会場 | 安曇野市役所本庁舎 3階 共用会議室 305 |
| 4 | 出席者 | 磯野会長、細川副会長、等々力委員、宇都委員、大澤委員、夏目委員、山田委員、鈴木委員、小澤委員、亀井委員、川崎委員 計11名 |
| 5 | 市側出席者 | 吉田市民生活部長、地域づくり課 保科課長、金子係長、百瀬主任 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和6年12月24日 |

協 議 事 項 等

1 概要

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 報告事項

① 市民活動サポートセンター事業実施状況について

(会長)

- ・市民活動フェスタに大学生が参加したとのことだが、参加の様子や、気づくこと、要望があれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・今回、大学生グループで1つのブースを出していただいた。また、松本大学生1名にはフェスタの運営チームメンバーとしても参加いただいた。
- ・運営チームに参加いただいた学生は、宇都先生の仲介で、松本大学で講義を行う機会をいただき、フェスタへの参加を呼び掛けたところ参加いただいた方。
- ・フェスタの後も、本人自ら企画するイベントで、市民活動サポートセンターとして協力するなど、つながりが続いている。

(会長)

- ・市民活動フェスタに参加された委員から感想などあればお願いしたい。

(委員)

- ・午前中に伺ったら、駐車場が空いていなかった。大変人が多かった。

(委員)

- ・食べ物の催しがもう少しあってもいいのではないか。楽しみの一つだと思う。

(委員)

- ・カレンダー販売と活動紹介で出展。スタッフからは、他の団体の活動の様子を見て回り、市内にこんなにも色々活動している団体があることを知って良かったと聞いた。
- ・課題が今年もあったと思うが、みらいで開催するようになってから3年目ということで、駐車場の問題などは定着してきたからこそその課題だと感じる。

(会長)

- ・家族連れや若い世代が沢山いて、すごく賑わいがあり明るい雰囲気だった。
- ・中のパネル展示と外のブース出展が解離している感じだった。パネル展示のやり方は考える余地があると感じた。
- ・みらいは駐車場が元々少ない。

(委員)

- ・大学側としては学生が参加できて良かった。
- ・今後も大学生には、できるだけ早い時期にフェスタの情報などを周知できたら良い。

(委員)

- ・出展側の立場から、展示コーナーのためにポスターを印刷してもらえるのはありがたい。汎用性があるポスターにすれば長く使える。非常に助かるので、ぜひ続けていただきたい。

(副会長)

- ・参加した大学生は、地域を盛り上げたいという強い思いを感じた。ただ、活動の目的やテーマが明確でないところもあったので、お客さんが深みまで入っていけないように感じた。
- ・大学の場で、まずは交流し地域コミュニティの中に溶け込んでいく技術を含めてご指導いただきたい。場合によっては地域活動の参画に対し単位を認定するなど検討してほしい。

(委員)

- ・大事なものは、1回やって終わりではなく、悔しかったことやできなかったことが経験になって、次の年に活かしてもらうことに意義がある。

(会長)

- ・センター通信は、団体にとって参考になる情報が載っているが、一般の皆さんに関心を持ってもらえるような工夫が必要。手に取ってもらわないことにはただの紙になってしまう。

(副会長)

- ・FM ラジオ出演者の人選に困っているという話がある。市には数多くのイベントがあるので、市職員が出演し趣味などを話すのはどうか。
- ・「まちづくりを担うあらゆる主体のネットワークづくり」では、市民活動団体、地区社協、公民館についても多様な人材と活動があるので、情報を共有していただきたい。

② 市民活動サポートセンターの今後の方向性について

(事務局)

- ・センターの新設について要望がある中で、現在、支所内に移設できないか検討している。今後、委員の皆さんや、要望団体、社協等と現場を見ながら、意見をいただく機会を設けたい。

③ 安曇野市自治基本条例の検証等について

(会長)

- ・「自治の基本理念」には、「市民、市議会及び市は国籍、民族、言語、宗教又は文化の違いによ

って…」とあるが、「言語」が入っている理由は何か。国籍や民族が違えば言語が違うのは当然含まれると思うが。

(事務局)

- ・この条例の制定当時、多文化共生という趣旨を表現したくて盛り込んだと思われる。

(委員)

- ・人口の維持は、まちを支えるためにとっても重要。後世に対する役割は考えていきたい。

(委員)

- ・改正案の条文のつくり方で、文章的におかしい所は整理してほしい。

(事務局)

- ・法務の方とも相談しながら整理をして修正していく。

(4) 協議事項

① 協働推進計画の進捗状況について

(委員)

- ・センターのロゴができたことで、SNS と紙媒体が連動している感じを受けた。
- ・SNS を強化したことで、若い世代にアピールしやすくなった印象がある。県内の大学それぞれに安曇野市出身の学生が大勢いて、意外に遠いところの学生ほど、市が何をしているか関心が高く、インスタでフォローしている。
- ・自分のふるさとのために何かできないか、居場所と出番を求めている潜在意識は若い世代の方が強くあるのを感じている。
- ・掲載内容も上手なので、この調子でぜひ SNS をさらに頑張っていただきたい。

(委員)

- ・インスタグラムで検索してもすぐに出てこない。たどりつくまでハードルがある。二次元コードなどでアクセスしやすい工夫が必要。
- ・安曇野には移住者のインフルエンサーがいるので、そういう方とタグが組めると良い。

(副会長)

- ・1階情報コーナーはわかりづらい。看板なり通路なり何か案内の工夫をしたらどうか。
- ・地区社協の活動や地区の公民館の活動情報を求めに来た時に、手に取れるような形で整理しておいてほしいと思う。自分たちで欲しい情報を入手できる。

(委員)

- ・小中学生向け出前講座は実績3件とあるが、どんな内容か。

(事務局)

- ・水や自然などの環境の講座。

(委員)

- ・小中学校の先生方は忙しく、特別な授業をしたくても組み立てる時間がない。小中学生向けの出前講座に先生のニーズは必ずあるので、引き続き小中学校に周知していただきたい。
- ・みらいで開催した市民活動フェスタは図書館と連携して実施できたか。

(事務局)

- ・図書館とどう連携できるか、アイデアが乏しく特別なアクションができなかった。

(委員)

- ・安曇野市は発信力に力のある図書館司書が多い。その発信力を次回のフェスタにぜひ取り込んでいただくと良い。
- ・若い人の意見を大事に聞いてあげると、そこに「居場所」と「出番」を持って関わっていく。離れていても、関係人口としてずっと関わり続けてくれる。若い人の価値観が未来の価値観になる。積極的に小中学校へのアピール、それから図書館を通じた若い世代のアピールを、ぜひ次年度以降意識していただけると良い。

(委員)

- ・朗人大学では、学んだことを自分の生活に活かし、地域の中で色々な活動してほしいというのが大きなテーマになっている。
- ・1人でも多くの方が地域の中で元気に活躍してもらえるように繋げていければと思う。

(委員)

- ・コミュニティースクールでは、地域から学校への発信から地域づくりにつながる。いい団体が沢山あるので、学校にPRして繋がれば良い連携ができる。コミュニティースクールを進めている生涯学習課との横の繋がりがあれば、広がっていくのではないかな。
- ・公民館で計画する講座、図書館の講座など色々な講座がある。連携できれば、もっと広く周知できるし公民館としても良いのではないかな。

(委員)

- ・小中学生向けの出前講座はどんな内容があるのか。

(事務局)

- ・小中学生向けでは全部で41講座がある。まちづくり、観光・農林業、安全・安心、環境・景観、福祉、人権・国際、歴史・文化のテーマに分かれている。

(委員)

- ・講演会は情報が一方的に入って、知識を得て満足して終わりになってしまう。今は情報を手に入れることが昔より格段に簡単になっているので、学んだことをどうアウトプットするか、ということに重点を置いた内容に見直す必要があると思う。

(委員)

- ・ボランティア活動と市民活動の繋がりが大事。最初のきっかけとしてのボランティア活動から

市民活動に繋がるよう、市民活動サポートセンターと一体的に展開していくと良いと感じる。

- ・社協の各支所にボランティアセンターがある。内部の連携強化と市民活動サポートセンターとの連携強化も進めていきたいと考えている。

(委員)

- ・区長会では、1月に高校生や大学生と区について意見交換を行う。先日、地域づくり課と穂高商業高校に行って、2年生に「区とは何か？」について講義をした。
- ・区長は、ほとんど70代前後の方が多く、若い方との意見交換は今後も続くことを期待したい。

(委員)

- ・市民活動フェスタの運営方法に課題があるということだが、塩尻もまちづくりフェスティバルをやっているが、数年経つと、団体が集まっても新しい意見が出なくなりマンネリ化する。参加団体へ声をかけて一緒にアイデア出しをやるなど、刺激を入れる工夫ができるといい。
- ・例えば当日のボランティアとして高校生とか大学生に参加してもらおうと、いろんな団体を間近に見られる機会にもなる。
- ・来場者のアンケート回収率を増やすには、アンケートを出した方に景品を用意するなど案。

(委員)

- ・若者は居場所と出番を待っているとのこと。高齢者は、居場所はあるが、出番がない。高齢者の出番も用意できるようなフェスタを考えていけたらいい。

(事務局)

- ・新規採用職員には地域づくりに関心を持っている方がたくさんいる。体験研修として市民活動フェスタにも参加してもらおうようにしていきたい。

(会長)

- ・市の「ゆるつな」を参考に、地域でサロンを開催した。まずは一人暮らし高齢者を対象で実施したが大変好評だった。若者も大事だが、高齢者が元気であることも非常に大切。

(委員)

- ・高齢者サロンを増やそうとしたり活性化しようとしても、受け身の方が多く、取り組みを進める難しさを感じる。
- ・若い方が切り口となって新しいものが生まれ、つながりを広げていくことに希望を感じる。

(委員)

- ・高齢者の社会参加は健康寿命に影響が大きいので、社会参加を促すことはとても大事。

(委員)

- ・デイサービスの利用者が、こども園の落ち葉拾いや窓ふきのボランティアに参加させてもらっている。高齢者にとっては出番が居場所になることがたくさんある。
- ・特に認知症の問題で言うと、今まで居場所も出番もあった人が、その病気によってだんだん居場所と出番がなくなっていく。そういう時に役割ができることによって、自己肯定感を回復さ

せる。事業所の中だけでやると限界があるので、いかに地域社会における役割を持たせてつなげていくか大切。

(副会長)

- ・市民活動フェスタは、その目的について、お祭りのな団体のPRの場なのか交流が主なのか、という議論が去年も今年もなされてきた。フェスタはお祭りのな目的でいいと思う。
- ・交流では異業種や異世代と交流できる仕掛けが必要だと感じる。交流会なら大がかりでないので頻繁にできる。

(会長)

- ・高齢者サロンは強制ではなくて自分の選択で、まずは外に出る、そしてその場に来ることがとても大事だと思う。

(委員)

- ・高齢者サロンで深刻なのが移動手段の問題。一部の地区では移動支援のボランティアが立ち上がったが、後継者や継続が課題。
- ・若い世代をいかに取り込んでいくか。同じ人たちだけで考えるのではなく、違う発想をうまく巻き込んでいくことができれば、活動の幅が広がり活性化していくと感じた。

(委員)

- ・いくつかの団体は、若い人を入れなければ組織が継続できない強迫観念の下に活動している。
- ・今まで若者を取り込むという発想で考えていたが、既存の組織を大事にしようという気持ちから離れて新しいことをやることで、高齢者も若者も出番ができるし、居場所もできるのではないかと感じた。

(委員)

- ・楽しみとか、尊厳的なところをサポートしていく仕組みがあるとよい。
- ・何もないところから始まるというのは、まさにやりたい人が集まる、という点で良い。ただし、既に形になっているところの方が入りやすい人もいるので、バランスが重要。
- ・「交流しましょう」とか「後継者を育てましょう」という圧をかけると、逆効果。

(5) その他

(6) 閉会